



臨床研修必修化に伴う情報源の整備 —調査と考察—

首藤 佳子

I. はじめに

臨床研修必修化に向けて当院図書室の見直しを行うために調査を実施した。調査目的は臨床研修必修化と整備すべき情報源に関する各種データの収集で、具体的な調査事項は1. 認定基準の変更点、2. 必要とされる情報源とその内容、3. 他の臨床研修指定病院の予算と情報源整備状況である。

II. 調査とその結果

新認定基準の図書館関連項目では、IT化の傾向が鮮明に打ち出され、規模より機能へと指標が転換された。整備すべき情報源は「臨床研修に必要な図書、雑誌」のほか、「Medline等の文献データベース」「教育用コンテンツ」「医学教育用シミュレーター」「医学教育用ビデオ」である。

主な文献データベースには、Medlineの他に医中誌、JMedPlusがあるが、PubMed以外は有料。教育用コンテンツは、主としてコンピュータを使った診療教材で、the cochrane libraryなどのEBM二次資料、UpToDateやclinical evidence、Ovidの提供するMedWeaverやMD Consultなどさまざまな情報源がある。これらはより臨床に密着した、実地研修のための臨床支援ツールで、EBM関連の情報源でもある。そのほとんどが英語のツールで、いずれも有料、提供形態や契約種別もさまざまである。

近畿東海地区15臨床研修指定病院の調査では、当院のデータも含む16病院の平均病床数は620床、雑誌購入誌数は和洋併せて平均180種、購入費は平均950万円、単行本購入費は年間平均107万円で、雑誌中心の予算配分が明らかである。すべての図書室でインターネット環境が整備されており、文献検索データベースが利用可能である。一方、教育用コンテンツは整備途上、シミュレーターやビデオは図書館の範囲では未整備のところが多かった。

III. 考察とまとめ

当院は雑誌購入費906万円、単行本購入費約90万円、PubMed以外の契約情報源は医中誌Web、JDream、the cochrane library、clinical evidence、UpToDate(試験的利用)である。資料購入費は16病院の平均をやや下回るが、予算額、整備状況はまずまず妥当と言える。しかし、電子リソース整備費の図書室予算総額に占める割合は決して少なくない。今後、予想されるコスト増については、予算の全般的な見直しと運用の工夫が必要である。資料や情報源の評価、選択が今まで以上に重要になってくるかもしれない。

一方、電子リソースの利用価値を高めるためには利用環境改善が必至で、イントラネットなどのネットワーク環境、図書館ホームページの改善など、早急に対策を講じる必要がある。また、十分利用されていない電子リソースの利用促進を図るための広報活動や利用指導等を充実させる必要がある。